

令和5年度 調布市立北ノ台小学校 学校評価報告書 (学校長 野口 直也)

学校の教育目標

◎思いやりのある子ども ○よく考える子ども ○明るく元気な子ども

目指す学校像(ビジョン) 例) 学校像, 教員像, 児童・生徒像

目指す学校像 【子どもたち一人一人を大切に作る学校】

- (1) 児童にとって 「よろこびのある毎日」
 - ・友達と関わるよろこび ・学んで分かるよろこび ・自分の成長が実感できるよろこび ・自分の存在が認められるよろこび
- (2) 保護者, 地域にとって 「安心して任せられるみんなの学校」
 - ・開かれた学校 ・安心できる学校 ・迅速で誠実な対応 ・みんなの学校 (地域との協働, 連携)
- (3) 教職員にとって 「自己実現できる職場」
 - ・風通しのよい明るい職場 ・やりたいことができる職場 ・成長できる職場

調布市立学校における共通した領域 <短期的な経営目標>

	1 豊かな心(徳)	2 確かな学力(知)	3 健やかな体(体)
自己評価	(1) 具体的な取組	(1) 具体的な取組	(1) 具体的な取組
	①主体的に考え, 議論する道徳授業の実践をするとともに, いじめについて考える授業を全学級で各学期1回, 年間で3回行う。	①週ごとの指導計画を作成, 提出し, 計画的に指導を行うとともに, 毎時間の授業においてねらい明示し, 振り返りを行う。	①「自己指導能力」を身に付けさせるために, 児童に自己選択, 自己決定させる場を設ける。「みんなのきまり」は全教職員で共通理解を図り, 挨拶や正しい言葉遣い等の習慣を身に付けさせる。
	②不登校児童の解消や新たな不登校を生まないために心の居場所づくりに努める。(児童の声にしっかり耳を傾ける。迅速で誠実な保護者対応をする。)	②「主体的・対話的で深い学び」となるよう, 積極的に対話を取り入れ, 授業の工夫改善を行う。	②食育を充実させるとともに, スポーツフェスティバル, なわ跳び週間等を行うことで, 児童の健康や運動への興味関心を高め, 楽しさや喜びを味わわせるようにする。
	③学級活動やたてわり班活動等の特別活動を通して, 児童に豊かなコミュニケーション力を身に付けさせる。	③年間10回の校内研究で, 児童に学び合うよさを感じさせるためのICTの活用方法や指導方法を身に付ける。	③ねらいを明確にし, 運動量を確保した体育授業を行うとともに, 全員外遊びを実施することで運動の日常化を図る。
	(2) 成果(数値目標に対して)	(2) 成果(数値目標に対して)	(2) 成果(数値目標に対して)
	① 児童アンケート「いじめをしないで仲良く」95点以上→90点, 保護者アンケート「子供たちが安心して生活」85点以上→89点, 職員評価「道徳授業」70点以上→67点「いじめ授業」75点以上→84点	① 児童アンケート「授業の内容が分かる」85点以上→83点, 保護者アンケート「楽しく分かりやすい授業」85点以上→90点, 職員評価「計画的な指導」85点以上, →86点「ねらい・振り返り」75点以上→80点	① 児童アンケート「すすんで挨拶」85点以上→83点, 保護者アンケート「すすんで挨拶, 学校のきまり」80点以上→81点, 職員評価「みんなのきまり, 挨拶, 言葉遣い」80点以上→77点
② 児童アンケート「学校が楽しい」90点以上→83点, 「先生に相談できる」85点以上→71点, 保護者アンケート「相談に誠実に応じている」85点以上→89点, 職員評価「居場所づくりに努めた」80点以上→78点	② 児童アンケート「すすんで学習している」80点以上→75点, 「あきらめなくて頑張る」85点以上→83点, 職員評価「対話を取り入れた授業」80点以上→75点, 「授業の工夫」75点以上→73点	② 保護者アンケート「体力の向上や健康を保つための指導」90点以上→88点, 職員評価「食育の充実」80点以上→80点, 体力テストTスコア50以上→Tスコア51	
③ 児童アンケート「きまりを守って生活」85点以上→83点, 職員評価「靴箱・ユニバーサルデザイン」80点以上→71点	③ 児童アンケート「タブレット端末等を使うことで授業がわかりやすくなった」80点以上→83点, 教員評価「ICT機器を効果的に活用させることができた」80点以上→80点	③ 児童アンケート「すすんで運動」90点以上→85点, 職員評価「ねらいを明確にした体育授業」「全員外遊びの実施」80点以上→83点, 74点	
学校関係者評価	・子供たちが落ち着いて授業に臨んでいる。子供たちの笑顔がどの教室にもみられる。先生たちの笑顔がもっと増えるといい。	・教える→考えさせる→自分はこう考える, こうしたいというように変えていくための方策を探っていくとよい。	・児童の登下校の様子が気になる。地域, PTA, 教職員で見守っていきけるよう, 学校も関心をもっていることを地域に伝えられるようにしたい。

学校の特色を生かした領域 <短期的な経営目標>

	4 保護者・地域との連携	5 ICT機器を活用した授業改善
自己評価	(1) 取組目標(具体的方策)	(1) 取組目標(具体的方策)
	① HPを年間150回以上更新する。学校(学年)便りを定期的に発行する。	① ICTの活用場面を増やすことで, 日常的な授業力の向上を目指す。
	② 地域学校協働本部を生かして地域の教育力を活用する。	② 「個別最適な学び」「協働的な学び」を意識して児童タブレットを活用する。
	(2) 成果(数値目標に対して)	(2) 成果(数値目標に対して)
① 教員自己評価「HP更新, 学校(学年)便り発行」70点以上→69点	① 教員自己評価「ICTの活用による授業力の向上」80点以上→81点	
② 保護者アンケート「地域と協力した教育活動」90点以上→88点	② 教員自己評価「一人一台タブレット端末の積極的な活用」85点以上→77点	
学校関係者評価	・日常生活や行事が元に戻った中で, 今まで地域と学校, PTAが連携してきたノウハウがうまく引き継がれていないと感じることがある。生活様式が変わりつつある今, 三者を繋ぐ役割を担う人材育成が望まれる。 ・地域も協力して, 花壇や畑, 樹木など, 環境整備ができています。 ・児童の登下校について, 地域・PTA・教職員で見守ってほしい。	・タブレットやプロジェクターなど, ICT機器を活用した授業が日常に行われるようになった。子供たちも低学年から操作方法が身に付いている。 ・タブレットを使うことに慣れた分, 逆にICT機器に頼らずにアナログで進めた方がいい場面では, あえて使わないなど, 選択の幅が広がっている。

人材育成・組織運営

自己評価	○授業力の向上 ・複数の講師を招いての研修会, 行内研究に連動させたOJT等により, 教員の授業力を高めることができた。 ○校務分掌等の活性化 ・教職員のモチベーションと当事者意識は向上しているが, 仕事量に差があることが課題である。 ○服務規律の徹底 ・不適切な言動, 文書管理等の服務研修を複数回行い, 服務規律の徹底を図っている。 ○ワーク・ライフバランスの推進 ・仕事内容の精選, 効率化などを行い, 今後も継続して教職員の在校時間を減らす必要がある。
学校関係者評価	・学校で実施している特別支援教育の研修に地域の人間も参加させてもらい, とても有意義だった。特別支援教育に対する理解がより深まった。 ・先生たちはとても仕事熱心なので, 「負担をかけたくない」という遠慮から声をかけづらいこともある。 ・教職員の負担を減らすためにも, R7年度のコミュニティスクール開設に向けて, 人材を集める。地域の方々から「携わりたい」という声も耳にする。

中期的な経営目標の達成状況

- 1 教育活動全体を通じて行う道徳教育の充実, 特別支援教育の充実においては, 今年度も継続して研修を実施したことで教員のスキルが向上した。
 - 2 主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善については, ICT活用を関連付けて校内研究で取り組んだが, 「主体性」の部分で課題が残った。
 - 3 自己指導能力の育成において, 「理由を考えさせる生活指導」が定着しつつある。健康指導では, 栄養士を中心に食育の活性化を図ることができた。
 - 4 「校外学習」「体験学習」「キャリア教育」等で地域人材や保護者の協力を得ることで教育活動の充実を図ることができた。
 - 5 一人一台タブレット端末の効果的な活用については, 今年度も校内研究のテーマとして取り上げたことで活用の幅を広げることができた。
- 人・組 ・授業力の向上のために, OJTを更に活性化する。・仕事量のバランスを考え, 校務分掌を部分的に見直す必要がある。

次年度の重点課題

- 特別支援教育の充実 ・生活指導における自己指導能力の育成(「守らせる生活指導」から, 自己選択・自己決定・自己実現を大切にする「考える生活指導」へ)
- ・校内研究, OJTの充実による授業力の向上 ・特別活動等によるコミュニケーション力の向上 ・読書教育の充実 ・食育の充実

